

<指導の実際>

① 教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・スクールダッシュボード、自作アンケート、レディネステスト、学びの指標アンケート

○意欲の低い児童に対して、細かく手だてを取ることができた。

●継続的にデータを蓄積し、児童の実態に合った対応ができるように、日々データを分析して、振り返りをしていく必要がある。

② 指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用 前時までの内容がすぐに確認できるように、掲示物を作製した。前時までに学習してきたことをすぐに思い出したり、自力解決のときの手段として活用したりする姿が見られた。

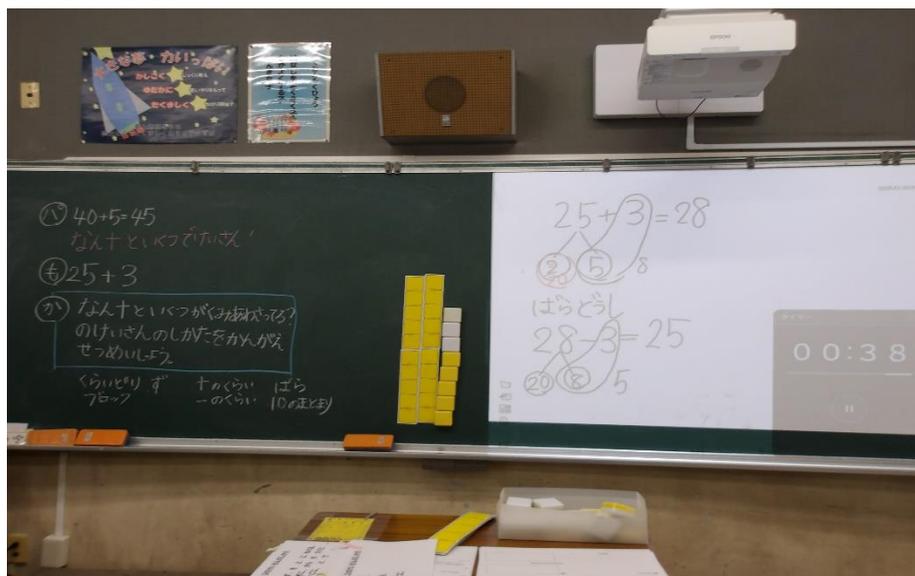


手だて⑤ 説明する力を高める工夫 自信をもって説明することができるように、机間指導で肯定的な言葉がけをしたり、ヒントカードや穴埋めプリントを活用したりした。自力解決を円滑に進めることができた。



手だて⑤ 説明する力を高める工夫 問題の解き方を説明することができるように、練り上げの後に、ペアで説明の練習をする時間を設定した。知識のアウトプットに繋がり、説明をすることが苦手な児童も自信をもって説明をすることができた。

<授業後の板書>



<協議会>

授業者の意図・反省

- ・自作アンケートで、算数に関して肯定的に感じている児童が多いこと、説明することに苦手意識がある児童が多いと分かった。
- ・説明することに苦手意識がある児童が多いので、掲示物やヒントカードなどの準備を行った。
- ・意欲が低い児童と学力が低い児童が必ずしも比例していないことがよく分かった。

研究協議(○成果 ●課題)

- レディネステストと授業アンケートの結果を分析し授業の内容が組み立てられていた。
- 振り返りのヒントになるような掲示物がすごくよかった。
- オクリンクを開きたがる子供たちが多かったため、出し方や出すタイミングにも工夫が必要。
- 子供にはどういう風な解き方なのか説明があればよかった、解き方はいろいろあるけど最終的には同じ答えだよというところを押さえたらよかった。
- ループリックでは★1 2 3からどれを目指せばいいのか、決めた目標に対する活動があればよかった。
- 友達と学習する学習スタイルが好きな子供が多かったのでその様子をもっと見られたらよかった。

指導講評

○ループリックについて

- ・ループリックを使うことでよりよくなるなら使うべきだが迷いながらなら使わなくてもよい。
- ・★3「図を使って説明する」がどんな説明が★3に該当するのか価値づけていけばよかった。先生がどこに着目してどう価値づけするかを考える必要がある。

○練り上げについて

- ・ブロック操作を最初からするのではなく最初にサクランゴ計算をして必要感のある方法でやらせてみるのもいい。何十といくつというキーワードがでているから最初にブロックを出さなくても子供たちの言葉で練り上げていけると思う。

○子供たち同士で作り上げる授業/一斉授業について

- ・学習形態としては一斉かもしれないけど子どもたち同士で話しながら、問いながら話し合いをするのがいいんだと積み重ねていく必要がある。
- ・算数の資質能力を高めるために練り上げる時間は必要→そこができてから子供たちに委ねていく。

○適応問題について

- ・適応問題は評価に関わるので説明を書かせるものでもよかった。
- ・後から見て価値づけもできるため、子供からのキーワードを板書に残しておく必要がある。

○データ利活用について

- ・研究推進校の役割として、データの利活用として、活用する元のデータについて。自作アンケートもいいが、統一されたデータがよりよい。
- ・データを分析した結果児童の様子がわかった。分析した結果が有効だったかどうかを振り返ることが大切。データがたまっていけば異学年や前年度と比較などもできる。
- ・見た目や実際にしかわからないこともあるけどデータでしか出てこないような実態もあるので学習面の躓きの早期発見とその子に合わせた指導をしていただきたい。